

課題研究以外の研究開発 1

教育課程の編成（外国語）

1 目的と期待される効果

（1）目的

普通科の教育課程において、外国語（英語）に関する各科目の内容をグローバル・リーダー育成の目的で編成し直した学校設定教科「グローバルラーニング（G L）」の中に学校設定科目として設定することで、グローバルな社会課題について理解を深めるとともに、自己の考えを深化し、英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。

（2）期待される効果

英語の語彙を増やし、英語に対する関心と意欲を高めるとともに、探究心、表現力、コミュニケーション能力等が身に付くことが期待できる。

2 内容

次の①・②を学校設定科目として設定する。

- ① G L コミュニケーション英語（コミュニケーション英語Ⅰの代替）
- ② G L 英語表現

3 実施方法

上記学校設定科目については、代替する科目の内容をグローバルな視点を重視して見直し、積極的にICT機器を活用して、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

「G L コミュニケーション英語」及び「G L 英語表現」を普通科1～3年次において分割履修する。

4 検証評価方法

- （1）普通科生徒及び保護者に対して「グローバル・リーダー」に関するアンケート調査を行う。1年後、2年後に同様のアンケート調査を実施し変容について分析する。
- （2）実用英語技能検定やTOEFL、TOEICの受験及び目標レベル達成状況も検証する。調査結果はSGH運営指導協議会で検証し評価する。
- （3）教員にもアンケート調査を4月及び年度末に行意識の変容について分析する。
- （4）大学進学実績をこれまでのものと比較検討し、検証評価する。

5 実施内容

G L コミュニケーション英語

目標

グローバル化に対応して、英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養い、将来のグローバル・リーダーとして活躍できる能力と資質を養う。

＜内容の取扱い＞

- ① 必修履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」を代替する科目として実施する。
- ② 指導に当たっては、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」の内容等を参照し、内容を発展・拡充させ取り扱う。
- ③ グローバル・リーダーを育成する観点から、4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する。

（１）授業の概要

「GLコミュニケーション英語」の授業は、原則としてオールイングリッシュで展開している。他の科目も含めて、英語の授業における生徒の発話が半分以上である割合は90%である。また、ペアワークやグループワーク、ALTを交えてのディスカッション、ディベート等を取り入れ、課題となっている生徒の英語の話す・聞く力の向上に向けて取り組んでいる。

（２）授業展開例（課題研究を支える「GLコミュニケーション英語」の取組）

生徒がグラフや表等のデータを用いながら、英語でSGH課題研究を発表できるように、GLコミュニケーション英語でプレゼンテーションをパフォーマンステストとして実施した。活動内容としては、模擬国連の場で食糧問題について、担当国の立場から食糧問題について提案することと仮定した。グループで担当国の立場を踏まえて食糧問題、特に牛肉の生産・消費についてリサーチし、2050年には世界人口が98億人となることが予想される中、牛肉生産・消費をどのようにしていくべきか提案した。活動の企画に際し、「2014年度第8回全日本高校模擬国連大会議題概説書」を参考にした。

「GLコミュニケーション英語指導案」

- 1 日時 令和3年1月中旬
- 2 対象クラス 2年普通科（7クラス）
- 3 使用教材 教科書 *Revised ELEMENT English Communication 2*（啓林館）
ワークシート
- 4 単元名 Lesson 8 Selective Breeding
- 5 単元目標
 - （１）聴衆にとってわかりやすいように工夫しながら、グループでプレゼンテーションをする。
 - （２）グラフや図を用いながら、情報や自分たちの考えをグループで説明する。
 - （３）プレゼンテーションの後、質問の内容を確認しながら適切に答えることができる。
 - （４）つながりを示すことばに注意するなどして、論理の展開を把握しながら読むことができる。
 - （５）仮定法の使い方を理解する。
- 6 本時の目標
 - （１）聴衆にとってわかりやすいように工夫しながら、グループでプレゼンテーションをする。
 - （２）グラフや図を用いながら、現状に関する情報やそれに基づく自分達の提案を説明する。
 - （３）プレゼンテーションの後、質問の内容を確認しながら適切に答えることができる。

7 単元全体の指導計画

- (1) 導入、p. 118 (2 時間)
- (2) p.119 (2 時間)
- (3) p. 120 (1 時間)
- (4) Review、Retelling (1 時間)
- (5) プレゼンテーション準備 (5 時間)
- (6) プレゼンテーション 1 (1 時間)
- (7) プレゼンテーション 2 (1 時間) 本時

8 本時の指導展開

段階 (配当時間)	具体的な評価	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入 (1 分)		・本日の活動、発表の順番、質問するグループを確認する。	・発表をするとき・聞くときの注意点を確認する。
展開 (3 4 分)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報は十分で、根拠に基づいた提案であるか。(情報活用能力、論理的思考力、創造的提案) ・効果的なプレゼンテーションができているか。(コミュニケーション能力) ・時折軽微な誤りはあるものの、コミュニケーションに支障のない英語で発表できているか(英語力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・5グループが Google Slide を用いて発表する。 ・各発表の後、教員から指名されたグループが発表に関して質問した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表時間が4分を超える場合には、発表を速やかに終わらせるよう指示する。 ・生徒が質問を理解できない場合には、パラフレーズするなどして支援する。
まとめ (5 分)		・発表についてコメントする。	・発表について、良かった点、今後の改善点、生徒が使用した英語表現に対してフィードバックする。

GL Communication English Performance Test Model United Nations (模擬国連)**Objectives of this activity:**

- ・英語でのプレゼンテーション能力を養う。
- ・リサーチスキル、データの活用能力を伸長する。
- ・物事を違った立場から分析し、分析結果に基づいて提案する。

In this activity, you will be *delegates* (大使) of a country and attend the *General Assembly* at the UN (国連総会). You will make a presentation under the following topic.

Topic: People in the world should stop eating beef.

Task 1 Reading: Read the article below to understand problems of eating beef.

The World Is Headed for a Food Security Crisis. Here's How We Can Prevent It

March 28, 2018

The world currently produces more than enough food to feed everyone, yet 815 million people (about 11% of the global population) suffered from hunger in 2016, according to the U.N.



The global population is expected to reach **9.8 billion** by 2050, and as a result, our food supplies may run out soon. According to the World Economic Forum, demand will be **60% higher** than it is today, but climate change, *urbanization, and *soil degradation will have decreased the *availability of land.

Food security is a really serious issue all human beings face. It's about how we feed a growing population at a time of climate change. One of the greatest causes of food crisis is changing forest and woodland into grassland for cattle. A kilogram of beef is about 30-times more demanding on the environment than a kilogram of plant protein. For a sustainable future, *radical change to our *diets is needed. Developing countries are shifting to a meat-based diet. If the populations of India or China were to adopt the same meat-rich diet as America, that would be extremely demanding on global resources.

Vocab: urbanization 都会化 soil degradation 土壌の質の低下 availability 利用できること radical 根本的な diet 常食

<https://time.com/5216532/global-food-security-richard-deverell/>

Comprehension Questions

1. What will the world population be by 2050?
2. What will happen as a result of a growing population?
3. What is suggested to solve the problem of food shortages?

Procedure:

Content:

Your presentation will be about **3 minutes**. *2分以下だと減点、4分以上は発表の途中でも止められます。

You need to include

- ① The present situations of the world and/or your country including beef consumption and production.
- ② Proposal reading **beef**. (牛肉の消費をなくす、減らす、あるいは代案で食料をまかなえるような提案をすること。)
- ③ You need to show some **data** to support your proposal. (必ずデータとしてグラフや表をスライドに入れること。)

グラフや表を示すときには “According to…”等を用いてどこからのデータなのかきちんと示すこと。

Script & Visual Aids

Write a script with your group members and make slides (Google slides). Make sure you include a graph or chart to show the present situations.

Q&A

Another will ask as many questions as possible within 2 minutes. そのグループが質問するかは TBA。
2 分間で質問が出なければ、質問できないグループは減点となり、教員が質問します。

Evaluation (成績に入ります、別紙参照)

Group Score: Content、Cooperation、Q&A

Individual Score: English、Delivery

準備段階で原稿を自分達で書き(発表直後に全員分のスクリプトを書いた原稿をグループで1枚提出)、当日はスライドのキーワードのみを見て発表します。

* 他のグループ(他のクラス)と相談することは禁止です。自分たちのオリジナルなリサーチ、アイディア、オリジナルの英文で発表すること。もちろん ウェブサイト等をうつす事も禁止です。これらの行為は盗作とみなされ、0点扱いになります。悪質な行為は特別指導の対象になるので十分注意すること。発表当日に欠席者がいる場合は他のメンバーが代わりをつとめることになるので、グループで全原稿を共有しておくこと。

Schedule:

Announcement of Groups & Choose a country /

Preparation (Research、Script、Slides) / , / , / , /

Slides Due / Google Classroom を通じて提出。

Rehearsal /

Presentation / /

* 原稿は添削しませんが、口頭での「〇〇とりたいのですが、△△でいいですか?」というような質問には答えます。
(「〇〇は何ですか。」は自分達で調べていないので NG)

* 参考: 手始めに以下のサイトから調べ始めてみましょう。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html> (外務省 HP)

Task 2 Preparation: You will make groups of four people.

Step 1 Choosing a country: You will work in groups. Your group will be the delegates of ...

Brazil / China / Ethiopia / India / Mexico / New Zealand /
the Philippines / Saudi Arabia / Switzerland / Turkey

Step 2 Research: Do research about your country and the situations of beef production and consumption.

Your Country: _____

Geographic Location	
Capital City	
GDP (Year/Source)	
number of undernourished people (Year/Source)	
Religion	
Amount of beef consumption in your country and the world (Year/Source)	https://data.oecd.org/agroutput/meat-consumption.htm
Amount of beef production in your country and the world (Year/Source)	http://www.fao.org/faostat/en/#data/QL
Problems of beef consumption & production (in your country & the world) 食糧という観点だけでなく、牛肉消費に関する他の分野の問題を取り上げても良い。	
Attempts to reduce beef consumption in your country or the world	

Step 3: All the delegates will present their speech at the General Assembly (See examples below).

Work together and come up with ideas.

Introduction of your country	
Present Situations 自国あるいは世界の現状、これまでの取り組みなど、自分の提案を裏付けるような現状を具体的に挙げる。必ずグラフ・表を使用する。	
Proposals 担当国の立場に基づいた提案、代案を提案しても OK、担当国の理想と現実のギャップを埋める提案を出来るだけ具体的(いつまでに、どのくらい、どのように)に考えよう。	

1 1 評価

以下のルーブリックを用いて評価した。

評価項目	評価の観点	評価
Content 内容	Originality 、 Length 、 the Amount of Information 、 Persuasiveness	4 長さは3分以上で、聴衆を引きつけるイントロダクションで始まり、現状分析に基づいた説得力のある提案である。自分たちで探したデータや情報が十分かつ具体的に示され、提案が根拠に基づいている。 3 長さは3分以上で現状分析に基づいた提案である。自分たちで探したデータや情報が示され、提案の根拠が示されている。 2 長さは2分以上だが、現状分析と提案の妥当性にやや欠ける。自分たちで探した情報量はやや不十分で、根拠は不十分である。 1 長さは2分未満で、現状分析と提案の関連が不明確である。提示された情報しか示していない。
Cooperation	Cooperation	3 常に全員が協力して準備、発表に取り組み、役割を均等に担っている。 2 時々、準備に協力していないメンバーがいる。発表の役割はやや不均等である。 1 しばしば準備に協力していない人がおり、発表の役割は不均等である。
Delivery	Volume、 Eye contact 、 Posture	4 声量は十分で、アイコンタクトをほとんど常にとっており、ビジュアル・エイドを効果的に使用しながら適切な姿勢で話している。 3 声量はやや不十分だが、聞き取れる。アイコンタクトは大部分でとっており、ビジュアル・エイドを使用しながら適切な姿勢で話している。 2 声量は不十分で、聞きにくい時がある。アイコンタクトはとっていないときが多く、姿勢は不適切な時がある。ビジュアル・エイドはほとんど使用していない。 1 声量は不十分であり、聞こえない。アイコンタクトは全くとっていない、姿勢は不適切である。ビジュアル・エイドは使用していない。発表の長さが2分未満である。
English	Pronunciation、 Grammar 、 Word choice	4 ほぼ常に発音・文法は正確で、語彙や表現の選択も適切である。 3 まれに発音や文法に軽微な誤りがあるものの、コミュニケーションには支障はない。 2 時々発音や文法に誤りがあり、一部コミュニケーションに支障をきたすことがある。発話量が著しく少ない。 1 発音や文法に誤りが多く、コミュニケーションに支障がある、あるいは発表の長さが2分未満である。
Q&A		3 発表に対して適切な質問をしている。質問に対して適切に答えている。 2 発表に対して質問をしている。質問に対して答えている。 1 質問できていない。あるいは質問に対して答えられない。 0 質問できない。答えられない。

1 2 成果と課題

S G H改題研究発表に向けて、グラフ等を含めたスライドを用いてプレゼンテーションに必要な語句を学習し、英語でのプレゼンテーション力を伸長する良い機会となった。英語によるQ & Aについても良く取り組んでおり、英語で即興で答える練習となった。また、今まで知らなかった食糧問題や世界の地域について自分たちで調べて発表しあうことで、世界の現状や自分たちの食生活が世界の食糧事情と関連があることなどを知り、視野を広げることができた。また、担当国の立場に立ってリサーチ、提案することにより、1つの政策には複数のステークホルダーが伴い、多面的に物事を分析することの必要性を認識することができた。アイコンタクトがまだ不十分なので、指導の機会を増やしていきたい。また、Q & Aの準備が不十分なので、S G H課題研究発表の際には、十分に準備させたい。

課題研究以外の研究開発2

英語力、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成

1 目的と期待される効果

(1) 目的

実用英語技能検定等の取得や海外の人との交流を通して英語力及び英語を用いてのコミュニケーション能力を身に付ける。

(2) 期待される効果

国際社会で活躍し、グローバル社会で通用するレベルの英語力が身に付くことが期待できる。

2 内容

(1) 実用英語技能検定（英検）の対策講座を展開する。英検2級は卒業までに全員、英検準1級は50%の取得をめざす。

(2) ネイティブの講師や課題研究の指導等で来校する留学生とのコミュニケーションの機会を増やす。

3 実施方法

(1) 英検の対策として課業期間の放課後や長期休業を利用した課外講座を開講し、受験を促す。各自に取得目標と計画を立てさせる。

(2) 個別の会話だけでなく、グループミーティングやディスカッションを行う。海外での課題研究の発表を視野に、ミニプレゼンやインタビュー形式のものを実施する。

4 検証評価方法

(1) 検定の結果や目標の達成レベルを検証の指標とするとともに、海外での研究発表時の英語力に対する評価及び自己評価も分析する。

(2) 講師・留学生などによる評価や、アドバイスから改善を図る。

5 実施内容（5年間のまとめ）

(1) 英検対策課外講座

区 分	内 容
面接講座	一次を合格した生徒対象に、二次試験直前の一週間のうち放課後等を利用し、面接講座を実施した。個々に時間を設定し、英語科の教員、ALT、外部講師で指導にあたった。

参考資料 英語検定2級以上取得者数の推移（令和2年度は第3回英検終了後<3月>に集計）

項目	令和元年度			平成30年度			平成29年度		
	2級	準1級	1級	2級	準1級	1級	2級	準1級	1級
2級以上取得者数	320	21	0	315	11	1	239	8	0
取得者／在籍	35.1%			33.6%			25.2%		

英検以外の外部検定についても生徒の受験状況に応じ、英語科教員とALTで面接やライティング指導を適宜行った。

(2) 英語を用いたコミュニケーションの機会（5年間のまとめ）

課題研究指導などで来校するネイティブの講師や留学生、及び教育旅行などで本校を訪れる学生、本校への長期留学生などとのコミュニケーションの機会を設けた。それにより、海外研修には参加できない生徒にも交流の機会を提供すること、会話だけでなくグループディスカッションや発表の機会を作った。

ア 海外からの教育旅行生との交流

台湾、マレーシアの学生との交流は千葉県商工労働部観光誘致促進課の紹介、トルコの大学生との交流は千葉大学との連携による。本校参加者はG Lクラスが中心で、相互の学校紹介プレゼン、課題研究発表とQ&Aや発表トピックに関するディスカッション、英語の授業の中で様々なトピックについて小グループで話し合うなどの活動を行った。

日時	交流相手（かっこ内は引率者）	本校参加者	内 容
H28 年 6/28	アクデニズ大学（トルコ） 学生7名 教員1名 千葉大学 梅田克樹先生	2 G 3 9 名	学校紹介、書道・剣道授業体験 交流会、パネルディスカッション
12/15	國立竹東高級中学（台湾） 生徒32名 教員3名	1 G 4 0 名	学校紹介、昼食交流、英語授業参加 部活動見学
H29 年 6/5	台中市立台中高級中学（台湾） 生徒32名 教員2名	1 G 4 0 名 2 G 3 9 名	学校紹介、昼食交流、英語授業参加 課題研究に係るディスカッション
12/18	SMK SEKSYEN18 校（マレーシア） 生徒30名 教員3名	1 F 4 1 名	学校紹介、英語授業参加（文化の相違 について）、交流
H30 年 12/10	KOLEJ ISLAM SULTAN ALAM SHAH（マレーシア） 生徒35名 教員3名	1 G 4 0 名 2 G 4 0 名	学校紹介、英語授業参加（日本文化紹介、 文化の相違について）、交流
R1 年 11/29	SMK SEKSYEN18 校、St JOHN 校（マレーシア） 生徒22名 教員3名	2 F 4 0 名	学校紹介、課題研究発表、ディスカッション （日本とマレーシアの違い）

イ 海外派遣交流校関係者との交流

オランダ、ドラードカレッジの学生の訪日の際やドイツ、デュッセルドルフ大学生が千葉大学に交換留学した際に交流した。

- ・平成30年5月2日（水）ドラードカレッジ（オランダ）生徒5名、引率者1名
英語の授業での交流（本校生徒80名）、学校案内、書道体験、交流
- ・令和元年4月25日（木）ドラードカレッジ（オランダ）生徒5名、引率者1名
英語の授業での交流（本校生徒76名）、学校案内、部活動交流
- ・令和元年7月18日（木）ドラードカレッジ教員2名
学校案内、オランダ派遣事前研修交流、部活動交流
- ・令和2年2月21日（金）デュッセルドルフ大学生（千葉大学留学生）1名
英語の授業での交流（本校生徒40名）、ドイツ・イギリス派遣生徒への事前指導（本校生徒20名）
- ・令和2年6月16日（火）7月29日（水）同デュッセルドルフ大学生1名
英語の授業での交流（本校生徒160名）、部活動見学交流

ウ 佐倉在住の外国人との交流

佐倉国際交流基金主催の日本語サロンでの日本語学習者との交流に本稿の希望者が参加し、校内案内やグループトーク（自国紹介等）、交流、文化体験への補助などを行った。

- ・平成28年10月22日（土）ゲスト13名 生徒19名 （文化体験は書道）
- ・平成29年10月21日（土）ゲスト10名 生徒20名 （文化体験は琴演奏）

エ 長期留学生との交流

半年から1年滞在する長期留学生に、英語の授業での自国文化の紹介や、海外派遣生徒の事前指導への参加、SGH課題研究発表準備の補助などに協力してもらい、より多くの生徒が英語でコミュニケーションをとる機会を設けた。

平成28年度、29年度、30年度 各1名（ドイツ）令和2年度1名（スイス）

（3）千葉県英語部会主催の英語ディベート講習会、大会への参加

希望者を募り各種講習会、大会に参加した。大会参加に伴い校内での練習を行った。

ア 令和元年度

千葉サマーカップレベル別大会 8/20（4名）千葉県高校生英語ディベート大会 11/2（4名）
Parliamentary Debate 連盟杯千葉県練習会 12/2（5名）および大会 2/2（6名）

イ 令和2年度（全てオンライン）

千葉サマーカップレベル別大会 8/21（8名） Make Friends Cup 10/25（7名）
千葉県高校生英語ディベート大会 11/2（10名）
Parliamentary Debate 連盟杯千葉県大会 2/11（5名）

6 成果と課題

（1）英検対策課外講座

大学入試改革における英語外部試験導入の有無や受験方法が不確定であるが、全体としては、生徒はその時点での実力を測ったり、学習の動機付けとして英語検定などを受検する傾向が続いている。口頭、筆記にかかわらず、ある話題について十分な説明と共に意見を述べる力の養成は今後必要である。日々の授業は課題研究共連動させながら、今後も力の向上を図りたい。

（2）英語を用いたコミュニケーションの機会

世界各国の英語を第一言語としない学生や社会人との英語によるコミュニケーションやディスカッション、発表の機会は、実践を重ねることで備わる自身や即応力、さらなるコミュニケーション力向上への動機付けの機会となっており、今後も設けていきたい。

（3）英語ディベート大会、講習会への参加

参加者にとっては、事前の準備も含めて、英語コミュニケーション能力や論理的思考力を高める良い機会である。授業でのディベート以外に、このような外部の大会に参加することにより、より深いリサーチや準備をする機会、他校生徒と英語を使ってディスカッションする機会が得られている。また、現在のようなコロナ禍でもオンラインで取り組める利点もある。生徒は様々な課外活動に取り組んでいるため、この取り組みへの参加者がすぐに増加することはないと思われるが、今後も参加者を募って継続すべきである。